

株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第109期中間報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当中間期における当社グループを取り巻く事業環境は、欧州や米国を中心とした金融・資本市場での信用収縮に端を発し、企業収益の先行き不安から雇用情勢が悪化するとともに、個人消費も低迷するなど、幅広い分野に影響が広がった結果、景気の後退色が強まりました。

このような経済全体の減速傾向の中、当社グループは、LSIや携帯電話ビジネスなどの市況の急速な悪化による減収はあったものの、国内でのサービスビジネスの収益力向上やコストダウンなどに努め、当中間期における当社グループの連結業績は、売上高2兆4,537億円、営業利益385億円、経常利益290億円、純利益46億円と、年初の計画を上回りました。

単独業績は、売上高1兆1,947億円、営業利益116億円、経常利益449億円、純利益391億円となりました。

株主のみなさまへの当中間期の配当金につきましては、1株につき5円とし、支払開始日を12月1日といたしました。

当社は、本年6月にご選任いただいた新経営陣のもと、「お客様起点経営」を徹底し、さらなる飛躍につなげるため、3つの「起点」の変革を推進してまいります。

第1は「お客様のIT」ではなく「お客様のビジネス」を起点にすること、第2は「日本中心」から「グローバル」を起点にすること、第3は、「地球環境」を起点にすることです。この3つの起点の変革に取り組むことにより、刻々と変化し、ますます増大するお客様の期待に応え、お客様のかけがえのないパートナーとして、お客様とともに成長することを目指してまいります。

当社グループを取り巻く事業環境は予断を許さない状況が続くものと思われますが、当社グループは今後も「常に変革に挑戦し続ける」というFUJITSU Wayを実践して、株主の皆様のご期待に応えられるよう努力してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年11月



代表取締役会長 間塚 道義 (左側)

代表取締役社長 野副 州旦 (右側)